

北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

1. 今後の見通し

予測期間：2003年9月下旬から11月上旬までの旬別

対象海域：道東海域、三陸海域、常磐海域

対象漁業：さんま棒受網漁業

対象魚群：南下回遊群

1) 道東海域

- (1) 来遊量：9月下旬頃高位でピークに達する。10月上旬に減少傾向となり、10月中旬には急減、10月下旬には低位水準で推移し、11月上旬は断続的となる。
- (2) 漁場：9月下旬には落石～厚岸沖と、釧路～襟裳岬周辺が主漁場となる。10月上旬には釧路～襟裳岬周辺・沖合が主漁場となり、10月中旬以降は襟裳岬南沖が主漁場となる。

2) 三陸海域

- (1) 来遊量：9月下旬から急増し、10月上旬には高位でピークに達する。10月中旬以降は減少傾向となり、11月上旬には低位水準となる。
- (2) 漁場：9月下旬～10月上旬は北部から南部にかけて広範囲に形成され、10月中旬以降は南偏傾向となる。

3) 常磐海域

- (1) 来遊量：9月下旬以降、低位水準ながら来遊がある。10月中旬には増加傾向となり、10月下旬以降は平年並みの水準で推移する。
- (2) 漁場：9月下旬には常磐南部において断続的ながら形成される。10月中旬以降は、犬吠周辺にも形成され、10月下旬～11月上旬は鹿島灘・犬吠周辺が主漁場となる。

2. 予測の概要

海 域		9月下旬	10月上旬	10月中旬	10月下旬	11月上旬
道東海域	来遊量					
	動向	高位水準	高位低下	急減	低位水準	断続的
	漁場	落石～厚岸沖・釧路～襟裳岬周辺	釧路～襟裳岬周辺・沖合	襟裳岬南沖	襟裳岬南沖	襟裳岬南沖
三陸海域	来遊量					
	動向	急増	高位水準	高位低下	中位低下	低位水準
	漁場	北部～南部	北部～南部	南偏傾向	南偏傾向	南偏傾向
常磐海域	来遊量					
	動向	断続的	低位水準	増加傾向	横這	横這
	漁場	常磐南部	常磐南部	常磐南部～犬吠周辺	鹿島灘・犬吠周辺	鹿島灘・犬吠周辺

3. 漁況の経過概要

(9月上旬)

1) 道東海域

- (1) 来遊量: 資源量指数から判断した来遊量の水準は、前年を大きく上回る急激な増加を示し、1989 年以降過去 14 年間のものと比較すると高位水準年に区分された。また日別 CPUE の推移から判断して、期前半よりも期後半の方が、来遊量が多くなった模様。
- (2) 漁場: 落石南では旬を通して漁場が形成された他、期前半に北上暖水の東側の漁場が徐々に消滅し、期後半には釧路～襟裳岬沖の漁場が形成された。落石南東 20 海里～厚岸大黒島南 30 海里付近では、期間中ほぼ連続して小型船主体の漁場となった。漁場水温は 10～13 台が主体で、他の漁場よりも低い。薄い群れが多く、灯付きは、期前半ではやや良好、期後半では並み～不良であった。襟裳岬南東 130 海里付近が、9 月 4 日頃まで大型船主体の漁場となった。漁場水温は 15～18 台。この漁場は、北上暖水の東側に差し込む親潮の先端部分にあり、親潮の差し込みが徐々に弱まるのと共に、期前半で消滅した。厚岸大黒島南 70 海里～落石南 120 海里付近は、9 月 6 日頃まで漁場となった。この形成域も北上暖水の東側にあり、親潮との潮境付近に位置する。漁場水温は 9 月 2 日までが 15～19 台、その後は 11～14 であった。釧路南 20 海里～襟裳岬南東 40 海里が、主に期後半に漁場となった。この漁場は、9 月 2 日に釧路南 30 海里付近で初めて形成され、その後一時消滅したが、9 月 5 日に再び漁場となり、8 日には襟裳岬沖にも形成された。漁場水温は 11～16 。
- (3) 魚体: 魚体は期前半では大 5 - 中 4 - 小 1～4 - 4 - 2 が主体であったが、期後半になると、4 - 4 - 2～3 - 5 - 2 と若干小さくなった。体長 30～31cm 主体、体重 160g 台が 6～8 割程度。